

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 11月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	0171300197		
法人名	有限会社 恵コーポレーション		
事業所名	グループホーム 紅葉館		
所在地	北海道北広島市虹ヶ丘8丁目2番11号 (電話) 011-375-5454		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年11月20日	評価確定日	平成21年12月1日

【情報提供票より】(平成 21年 10月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年 1月 12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 9人、 非常勤 9人、 常勤換算	13.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1・2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	48,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費 20,000円 暖房代9,000円（11月～3月）	
敷金	有（48,000）無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（円） 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300円			

(4) 利用者の概要(10月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	0	名	要介護2	9	名
要介護3	5	名	要介護4	2	名
要介護5	2	名	要支援2	0	名
年齢	平均 83.22 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新札幌聖陵ホスピタル、新札幌ウィメンズクリニック、平岡公園こじま歯科 他
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム紅葉館は、設備面で広い浴室に車椅子対応のトイレ、広々としたキッチンなどが整っており、協力医療機関との連携による緊急時の24時間対応など医療体制が整っていること、アクティビティリハビリに力を入れていることなどが大きな特徴である。家族等の意見を反映するために、毎月の利用料の支払いは振込ではなく現金の持参をお願いしており、その際に運営者が家族等に話をするなどの工夫をしている。行政との関係も良好で、運営推進会議には参加してもらっている。地域の行事への積極的参加と、お手玉や刺し子など利用者の作品を地域の保育園や会館に寄付するなど地域との連携も活発である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での改善課題には積極的に取り組みほとんどが改善されている。同業者との交流を通じた向上については今後も引き続き取り組む方針としている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を実施する意義については、会議で職員全員に説明し、今年度の自己評価は1年間をかけて、各ユニットごとに職員全員に分担し記載してもらい、計画作成担当者と管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、事業所の活動報告や行事のお知らせ、避難訓練、外部評価の結果や自己評価の内容などを議題とし、参加者から意見をもらいサービス向上に生かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が意見や不満等を表せる機会作りのため、毎月の利用料支払い時に運営者が家族等に話をするようにしている。ほか家族会を開催し意見を聞いている。今後も、運営推進会議に家族等の参加の呼びかけを引き続き行い、アンケートの実施をする予定である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の祭りや地域の行事に参加しているほか、地域の保育園や会館に利用者の作品を寄付している。また、事業所の夏祭り、クリスマス会、避難訓練など地域の方に参加してもらっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は事業所独自のもので、地域密着を念頭に置いた運営理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を各ユニットの見やすいところに掲示し、朝礼時に全職員で理念を唱和している。また、毎月の会議で理念を実践する上での疑問や意見を出し合い、日々のケアに生かせるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の祭りや地域のフラワーロード、レインボーフェスティバルなどの行事に参加しているほか、お手玉や刺し子など利用者の作品を地域の保育園や会館に寄付して喜ばれている。また、事業所の夏祭り、クリスマス会、避難訓練など地域の方に参加してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義については、会議で職員全員に説明している。今年度の自己評価は1年間をかけて、各ユニットごとに職員全員に分担し記載してもらい、計画作成担当者がまとめ、管理者が最終的に作り上げた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、事業所の活動報告や行事のお知らせ、避難訓練などを議題としている。町内会会長・町内会連合会会長、民生委員、包括支援センター、市や消防署など、参加者から意見をもらいサービス向上に生かしている。議事録も整備されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	3ヶ月に1度、市の会議室でグループホーム連絡会を行っているので、市との関わりも多い。今年度は当事業所が連絡会の幹事となっているので、市の担当者には機会のあるごとに運営上の相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時に、利用者の日々の暮らしや健康状況について個別に報告している。遠方の家族等にはFAXや電話などで連絡している。また、毎月定期的に行事の写真を掲載した「虹の橋便り」を郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や不満等を表せる機会作りのため、毎月の利用料の支払いは振込ではなく家族等に現金を持参して来てもらい、その際に運営者が話をするようにしている。また、夏祭りに合わせて家族会を開催し意見を聞いている。玄関に意見箱を設置しているがほとんど意見が入ることはない。	○	運営推進会議に家族等の参加がほとんどないので参加を呼びかけていくことと、家族宛てに無記名のアンケートの実施するなどの取り組みに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での職員の異動はほとんどない。職員の退職届は30日前には報告してもらい、早めに新人を採用し引き継ぎをしている。退職のあいさつは、あまり早いうちには行わないなど利用者の気質を見極めて対応し、家族等にも説明している。職員の入れ替わりは便りにも掲載している。		
5. 人材の育成と支援					

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のフロア会議で、管理者による学習会と職員が中心の事例発表を行う。新規採用した職員には、認知症についての新人研修がある。また、年に1回以上全職員が外部研修を受講できるように支援している。外部研修に参加した職員は報告書を作成し、全職員に周知したい内容は朝礼やフロア会議で発表している。資格取得のための研修受講については休日を取りやすく配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や介護支援専門員は、市のグループホーム連絡会や北広島ネット研究会などに参加する機会があるが、職員が同業者との交流をする機会は、近隣の有料老人ホームとの交流以外はない。	○	今後は、市のグループホーム連絡会などで知り合った他のグループホームの管理者などを通じて、管理者だけではなく、職員の相互交流や互いの事業所の見学会などを検討していくことを期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、本人及び家族等に事業所を見学してもらい、入居後は、管理者と職員が見守り、声かけと利用者に関わりを持つなかで不安を解消するように配慮している。現在入居待ちの方たちがいるが、本人及び家族等を夏祭りに誘い、早いうちから馴染みの関係を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に対し人生の先輩として尊敬の念を持って接している。日常では、利用者に料理についての知恵など得意なことを教えてもらうことがある。また、職員がマスクをしていたら心配してくれたり、疲れた顔でいる時はさりげなくマッサージをしてくれるなど、職員と利用者がお互いに支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の関わりの中で、会話や表情から一人ひとりの思いや意向について把握するようにしている。また、顔と顔をしっかりと合わせて声をかけたり、スキンシップをしながら様子を見守るなど心のケアにも努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族等からの情報や担当職員の意見を聞きながら介護支援専門員が介護計画の原案を作成し、再度家族や職員と相談して介護計画を作り上げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的に3ヶ月ごとの見直しであるが、1ヶ月ごとに確認し、利用者の状態に変化が生じた場合は現状に即した新たな計画を作成し、家族等に説明している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月1回の訪問理美容や個別の買い物支援のほか、協力医療機関との連携による往診、緊急時の24時間対応など医療体制が整っている。利用者が通院する際は車で送迎し、透析を受けている利用者についても対応している。また、アクティビティリハビリに力を入れている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による訪問診療が2週間に1回定期的に行われており、歯科についても人数がまとまれば往診してくれる。また、利用者が希望すれば協力医療機関以外のかかりつけ医の受診も自由である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けての医療体制指針があり、入居契約時に方針や内容を説明し署名捺印をもらっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録は所定の場所で管理し、介護記録には本人以外の名前を書かず、利用者が特定されないようにしている。管理者は、職員に対して、日頃からプライバシーを損ねるような表現はしないよう「職員マニュアルチェックリスト」などを利用し注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事の時間など一定のルールがあるが、強制はしないように利用者各自のペースに合わせて柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は食材配送業者に委託しているが、事業所の菜園から収穫されたトマトやじゃがいもを加えたり、2ヵ月に1回は殆どの利用者が好きなお寿司を作るなど工夫している。利用者が調理や後片付けを手伝いながら職員と一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日14:00～17:00まで入浴でき、希望すればその時間以外でも対応している。週に2回は入浴してもらっているが、入浴を拒否する利用者には上手に説得して入浴してもらい、時にはシャワー浴や足浴などで対応している。入浴剤も4種類揃えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意なことを把握して、食事の準備、掃除、花の水やり、雑巾縫いなどの役割を持ってもらっている。また、習字、絵、ぬり絵、貼り絵など趣味の活動を支援している。風船バレーやDVD鑑賞、カラオケなどを行ったり、音楽療法の専門家に有償ボランティアとして演奏をしてもらうことを検討している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日に希望者はほぼ毎日散歩できる。冬季には、年1度の大型衣料品店への買い物ツアーを実施しているが、それ以外の外出機会が少ないので、最近開設した地域の会館に利用者の作品を展示してもらい、それを見学に行く計画がある。また、1月には市内の「温泉行き福祉バス」を利用して温泉に行くことを企画している。	○	地域の会館に利用者の作品を見に行く計画と、「温泉行き福祉バス」利用の企画に取り組み、実現されることを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、人の出入りはセンサーでわかるようになっている。居室に鍵をかけなければ不安な利用者があり、内側から鍵をかけているケースがあるが、外からは開けることができる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けながら避難訓練を実施しており、夜間想定訓練もしている。近隣に有料老人ホームがあり、災害時の協力を依頼している。救急救命訓練の受講も定期的に行っており、職員の参加も進んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、食材配送業者の管理栄養士が栄養バランスを考慮しながら作成している。メニューを一部変える時は、管理栄養士に相談しながら行っている。水分摂取量は1,000～1,500mlを目標にしている。また、カロリー制限のある利用者には個別の献立で対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、広い浴室、車いす対応のトイレ、広々としたキッチンと設備が整っており、廊下や居間の壁には手作りの作品や行事の写真が飾られている。居間の窓は広くて明るく、周囲の自然を楽しむことができ、居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れた家具や馴染みの物が用意され、安全で安心な生活の場となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。